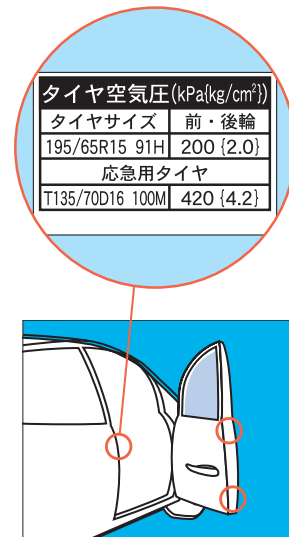
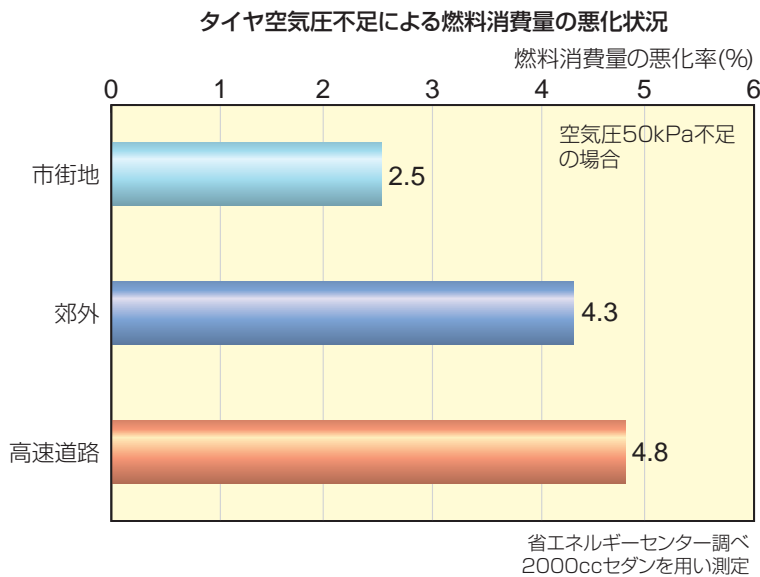


5

エコドライブのための点検整備

(1) タイヤの適正な空気圧

タイヤの空気圧が適正値より50kPa不足した場合、燃料消費は市街地で2.5%程度、郊外で4.3%程度増加します。また安全運転のためにも、定期的な点検の習慣をつけましょう。



ポイント

- ・タイヤの空気は徐々に抜けていくので、時々チェックが必要です。安全性にも影響しますので、高速走行前には空気圧をチェックしましょう。
- ・走行直後はタイヤが発熱し空気圧も変化しているので、チェックはタイヤが冷えた状態で行いましょう。
- ・タイヤの空気圧はガソリンスタンドでも測定できます。

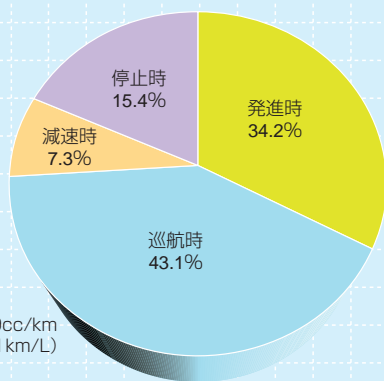
(2) オイルの適切な管理

エンジンオイルは劣化するので、走行距離や使用期間に応じて定期的に交換しましょう。エンジンオイルを寿命以上に使用すると、エンジンを傷め燃料消費も増加します。

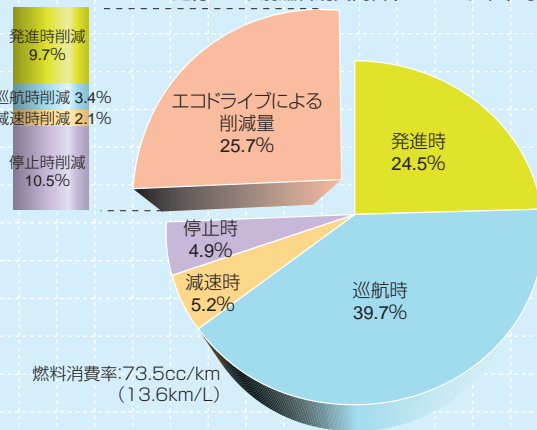
一般走行とエコドライブの燃料消費量

エコドライブをすると、燃料消費量を1/4削減できます。燃費で考えると35%の向上です。発進時と停止時の削減が大きいことがわかります。

走行モード別燃料消費割合(一般の運転)



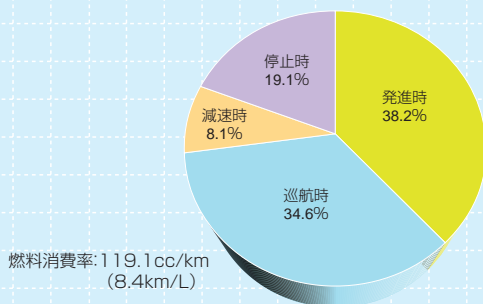
走行モード別燃料消費割合(コンテスト車平均)



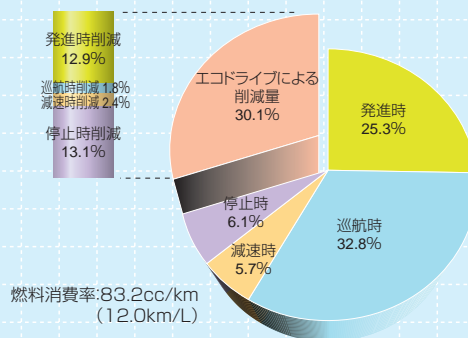
都心部

都心部では、発進時と停止時の燃料消費量が増えます。エコドライブによる削減量も大きくなり、発進時、停止時のエコドライブ効果も大きくなります。

走行モード別燃料消費割合(一般の運転)



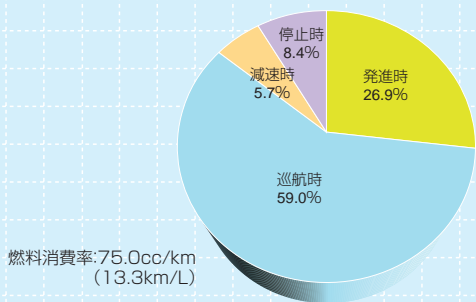
走行モード別燃料消費割合(コンテスト車平均)



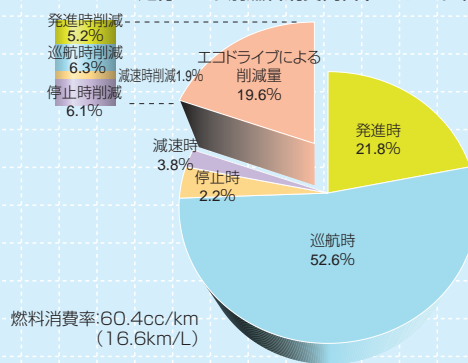
郊外部

郊外部では発進、停止が少なくなります。そのため、エコドライブによる削減量が少なくなります。巡航時のエコドライブ効果が相対的に大きくなります。

走行モード別燃料消費割合(一般の運転)



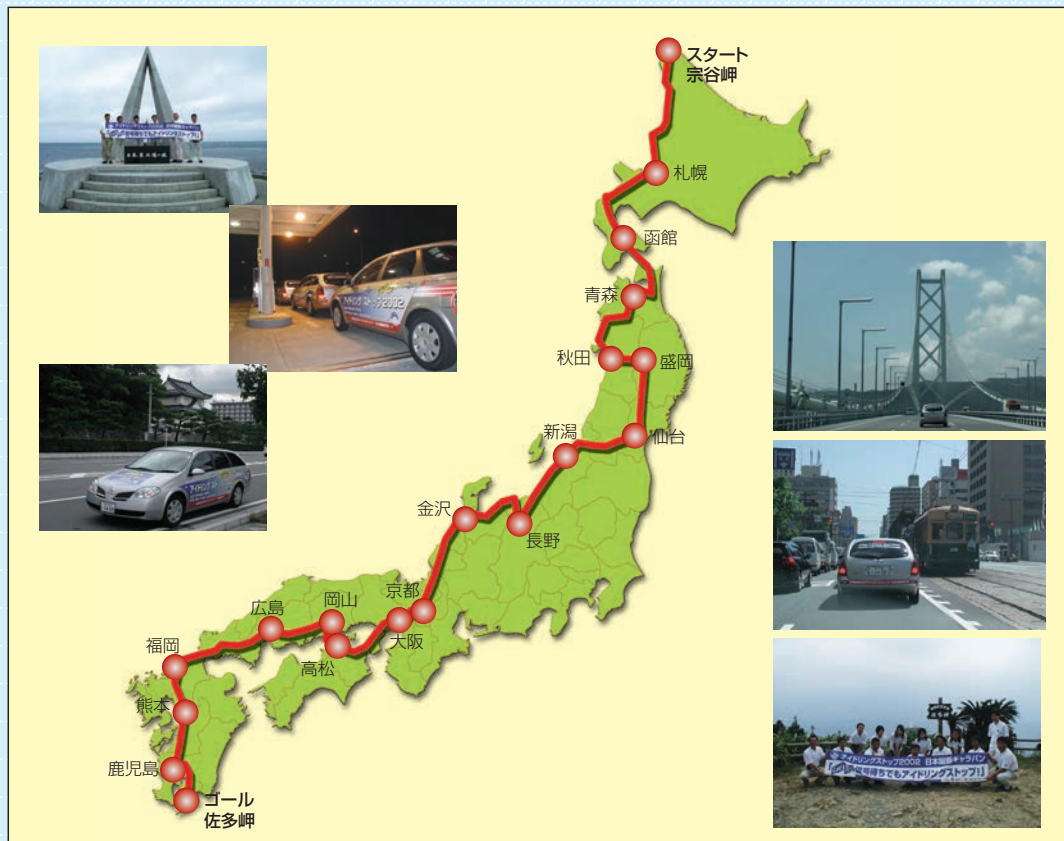
走行モード別燃料消費割合(コンテスト車平均)



全て省エネルギーセンター調べ「スマートドライブコンテスト(2004年)走行データより」

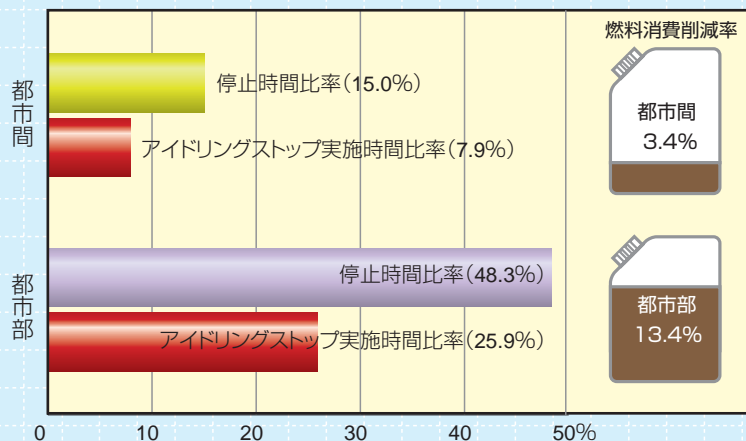
アイドリングストップ日本縦断キャラバン

アイドリングストップによる省エネ効果を実証するために、一般道路でアイドリングストップをしながら日本を縦断するというキャラバン走行を行いました。



アイドリングストップの効果

都市間では、停止時間も少なく比較的スムーズに走行でき、アイドリングストップを実施しても燃料消費削減率は3.4%でした。しかし都市部では停止時間が運転中の半分近くになり、アイドリングストップによる燃料消費削減率は13.4%となりました。



省エネルギーセンター調べ
「アイドリングストップ日本縦断
キャラバン(2002年)
走行データより」

※燃料削減効果は、ノーマル車(1号車)とアイドリングストップ車(2、3号車の平均)の燃料消費量の比較によるものです。

地球と走ろう 環境にやさしいエコドライブで

1 ふんわりアクセル『eスタート』

発進するときは、穏やかにアクセルを踏んで発進しましょう（最初の5秒で、時速20km程度が目安です）。日々の運転において、やさしい発進を心がけるだけで、10%程度燃費が改善します。焦らず、穏やかな発進は、安全運転にもつながります。

2 車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転

走行中は、一定の速度で走ることを心がけましょう。車間距離が短くなると、ムダな加速・減速の機会が多くなり、市街地では2%程度、郊外では6%程度も燃費が悪化します。交通状況に応じて速度変化の少ない運転を心がけましょう。

3 減速時は早めにアクセルを離そう

信号が変わるなど停止することがわかったら、早めにアクセルから足を離しましょう。そうするとエンジンブレーキが作動し、2%程度燃費が改善します。また、減速するときや坂道を下るときにもエンジンブレーキを活用しましょう。

4 エアコンの使用は適切に

車のエアコン（A/C）は車内を冷却・除湿する機能です。暖房のみ必要なときは、エアコンスイッチをOFFにしましょう。また、冷房が必要なときは、車内を冷やしすぎないようにしましょう。たとえば、車内の温度設定を外気と同じ25℃に設定した場合、エアコンスイッチをONにしたままだと12%程度燃費が悪化します。

エコドライブ 10のすすめ



5 ムダなアイドリングはやめよう

待ち合わせや荷物の積み下ろしなどによる駐停車の際は、アイドリングはやめましょう*1。10分間のアイドリング（エアコンOFFの場合）で、130cc程度の燃料を消費します。また、現在の乗用車では基本的に暖機運転は不要です*2。エンジンをかけたらすぐに出発しましょう。

6 渋滞を避け、余裕をもって出発しよう

出かける前に、渋滞・交通規制などの道路交通情報や、地図・カーナビなどを活用して、行き先やルートをあらかじめ確認し、時間に余裕をもって出発しましょう。さらに、出発後も道路交通情報をチェックして渋滞を避ければ燃費と時間の節約になります。たとえば、1時間のドライブで道に迷い、10分間余計に走行すると17%程度燃料消費量が増加します。

7 タイヤの空気圧から始める点検・整備

タイヤの空気圧チェックを習慣づけましょう。タイヤの空気圧が適正値より不足すると、市街地で2%程度、郊外で4%程度燃費が悪化します（適正値より50kPa（0.5kg/cm²）不足した場合）。また、エンジンオイル・オイルフィルタ・エアクリナエレメントなどの定期的な交換によっても燃費が改善します。

8 不要な荷物はおろそう

運ぶ必要のない荷物は車からおろしましょう。車の燃費は、荷物の重さに大きく影響されます。たとえば、100kgの荷物を載せて走ると、3%程度も燃費が悪化します。また、車の燃費は、空気抵抗にも敏感です。スキーキャリアなどの外装品は、使用しないときには外しましょう。

9 走行の妨げとなる駐車はやめよう

迷惑駐車はやめましょう。交差点付近などの交通の妨げになる場所での駐車は、渋滞をもたらします。迷惑駐車は、他の車の燃費を悪化させるばかりか、交通事故の原因にもなります。迷惑駐車の少ない道路では、平均速度が向上し、燃費の悪化を防ぎます。

10 自分の燃費を把握しよう

自分の車の燃費を把握することを習慣にしましょう。日々の燃費を把握すると、自分のエコドライブ効果が実感できます。車に装備されている燃費計・エコドライブナビゲーション・インターネットでの燃費管理などのエコドライブ支援機能を使うと便利です。

エコドライブ普及推進協議会

公益財団法人
事務局 交通エコロジー・モビリティ財団

*1 交差点で自らエンジンを止める手動アイドリングストップは、以下の点で安全性に問題があるため注意しましょう。（自動アイドリングストップ機能搭載車は問題ありません。）

手動アイドリングストップ中に何度もブレーキを踏むとブレーキの効きが悪くなります。慣れないと誤動作や発進遅れが生じます。またノックリーなどの部品寿命の低下によりエンジンが再始動しない場合があります。エアバッグなどの安全装置や方向指示器などが作動しないため、先頭車両付近や坂道での手動アイドリングストップは避けましょう。

*2 -20℃程度の極寒冷地など特別な状況を除き、走りながら暖めるフォームアップ走行で充分です。